

○永倉委員長 定刻になりましたので、第39回「文京区立さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会」を始めたいと思います。

今年度最初ということで、昨年度は親子ミーティングを中心にいろいろ検討してまいったと思います。

きょうは、映像で親子ミーティングの様子も、写していただいた永田先生においでいただいていますので、それも含めて皆さんに見ていただこうと思っております。

昨年の委員会でも、親子ミーティングを中心に、ことし、来年とシンポジウムも含めて検討していく。子供たちにきちんと情報を受け渡す時期に入ってきている。その作業をこの委員会で責任を持って取り組みたいというお話であったと思っております。そういうことで、ことしもよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、事務局もいろいろかわっておるといふことでありますので、委員の出席状況と配付資料等について事務局からお話をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○大川幼児保育課長 委員の出席状況でございますが、本日は保坂委員と大田委員から欠席の御連絡をいただいております。

次に、配付資料の御確認をお願いいたします。

まずは、次第というところで1枚御用意しております。その後、資料第1号ということで委員名簿、資料1-2号ということで幹事等の名簿をつけております。

資料第2号、「平成29年度の予定について」。

資料第3号、「さしがや保育園アスベスト親子ミーティングについて」。

資料第4号につきましては、「シンポジウムの開催について」という形で、全部で1～4号の構成になってございます。よろしいでしょうか。

○永倉委員長 資料はよろしいでしょうか。

そうしましたら、幹事の変更ということで、次第1について事務局から御説明をよろしくお願ひいたします。

○大川幼児保育課長 それでは、資料第1号また1-2号につきまして、今回幹事の交代がございました。区のほうの幹事が人事異動に伴いまして変更になりましたので、新たに委員となった職員について御紹介をしたいと思っております。

まず、松井資源環境部長でございます。

鶴沼施設管理部長でございます。

関係課長で、鈴木整備技術課長でございます。

次に事務局になります。

日比谷幼児保育係長でございます。

担当職員で、林でございます。

続きまして、長谷川でございます。

最後に私、幼児保育課長の私でございます。よろしくお願ひいたします。

○永倉委員長 よろしくお願ひいたします。

次第1は、そういうところでよろしいのでしょうか。

そうしましたら、次第の2に入りたいと思います。

こちら、事務局から御説明を先によろしくお願ひします。

○大川幼児保育課長 それでは今年度、平成29年度の予定について御説明いたします。資料第2号をごらんいただければと思います。

今年度の予定でございますが、まず7月1日にさしがや保育園アスベスト親子ミーティングを予定しております。こちらは昨年の会議で、日にちとしては決定をしているものでございます。

7月下旬に第40回の専門委員会を開催したいと思ひます。こちらにつきましては、7月に行いました親子ミーティングの反省、また、シンポジウムの詳細についてお諮りしたいと思っております。

8月ごろに読影部会を開催する予定としております。

10月ごろに、健康リスク相談・心理相談の第1回を開催いたす予定でございます。

11月ごろに第41回の専門委員会を開催する予定になっております。こちらは読影相談会の結果報告、また、委員の推薦、協定の本人名義について、また、健康診断の検討体制についてというところを議題として考えておるところでございます。

12月ごろに専門委員会のニュースを発行いたします。

明けまして、平成30年2月ごろに第42回の専門委員会の開催を予定しております。こちらにつきましては、次年度の委員の改選について、また、シンポジウムの内容についての最終確認をしたいと思っております。

最後に、3月ごろに健康リスク相談・心理相談開催の第2回目を予定しております。

こういった流れで、今年度は進めていきたいと思っております。

説明は以上でございます。

○永倉委員長 ありがとうございます。

この予定について、委員の皆さんからこういうことを提案したらどうかとかあるようでしたら。

よろしくお願ひします。

○長松委員 2回目の7月下旬の委員会において、多分来年のシンポジウムだと思うのですが、すけれども、詳細決定ということですが、このときにプログラムの何かを決めて、予算を決めるということによろしいのでしょうか。

○大川幼児保育課長 そうです。どういった内容のものにするかというところを細かくここで決定いただければ、それに合わせた形で区のほうで予算要求をしていく形になろうかと思ひます。

○長松委員 その次の11月の専門委員会の開催のときには、予算は締め切っていますね。

○大川幼児保育課長 そうです。

○長松委員 ですから、ここで内容を検討して、それに見合うものを計上していただくと。

○大川幼児保育課長 そうです。要するに、そこで具体的な額となると、それも内容に応じて、例えば事業者から見積もりをとったり、いろいろな作業がありますので、そこで具体的に幾らかというところまではなかなか示せないですけれども、そのシンポジウムの詳細の中身をまず確定していただければと思います。

○長松委員 1回でできるかなとちょっと思いましたので、伺いました。

○永倉委員長 そうしましたら、そのあたりは少し何度か詰めて行おうようなことも。

○長松委員 わからないのですけれども、きっと大枠ですることというのは先生方のいろいろなアイデアだと思うのですが、例えば学会を巻き込むのかとか、特に最初のころに委員になってくださった方々、日本中に散ってしまっている方々をお呼びするとか、どの範囲まで呼ぶのかとか、20回記念誌みたいな冊子をつくるとすると、大きく予算が変わってくると思いましたので、文京区さんは予算申請をどれぐらいまでにされるのでしょうか。

○大川幼児保育課長 通常ですと、9月に入ってから各所管が予算の要求のための額を確定し始めるところです。

○長松委員 わかりました。

去年、ちょうど親子シンポをするに当たって、大きいものがないかといったときに予算がもうないと伺いましたので、ことしはそういうことがないように、早目に御提案いただければと思います。お願いします。

以上です。

○永倉委員長 ほかにはどうでしょうか。こんなことができないかという御意見があれば。20周年ということではちょっと早いのですけれども、後で映像を見てもらってもそうなのですけれども、子供たちがほとんどもう成人に達している、立派な成年になっている。

○森委員 うちの子供は1998年11月生まれで、暴露した年が11カ月ですけれども、それがことし大学に入った。

○永倉委員長 11カ月ですか。

○森委員 11カ月で、全く歩けないような状態だったのですけれども、それがことし19歳になって、現役で何とか大学生になっているところです。

○永倉委員長 情報としても、考え方もかなり子供と親と違うこともありますし、やはりきちんと伝えて判断していただくことが重要なのかなと判断している。

○森委員 セミナーのときでも、なるべく親以外の先生方のお話も聞きたいなということは、親としては子供が出るかどうかはまだわからないですけれども、やはりそういう希望はあります。

○永倉委員長 ほかの親御さんにも、こういうことが聞けますよというのを伝えたいですけれども、伝える手段が。

○長松委員 伝えないと、何をしているかわからないですね。去年は郵便が届かなかったり、遅かったり、あと、いつものとおりそのままあけずに捨ててしまおうとか、いろいろな

問題になったので、それは事務局さんのほうでもいろいろな工夫をしていただきたいと思います。

きょうは、チラシを暫定でつくってまいりましたので直していただいて、印刷していただいて、去年もそういうふうに御提案申し上げたのですけれども、透明のチラシ袋みたいなものだと、あけなくても見てくれるかなと考えたりしています。

○永倉委員長 案をいろいろまた出していただいて、提案という形にできればと思います。そんなことで、いろいろな案をしばらく募集する形でペンディングにしておきたいと思います。

次に進んでよろしいでしょうか。

次第の3になります。「胸部X線写真の読影・保管について」ということでありますけれども、事務局から御説明いただきたいと思います。

○大川幼児保育課長 今、御説明しました「平成29年度の予定について」という資料第2号に書かれている3番のところになります。読影部会ということで、8月ごろを予定しているところがございます。

昨年度については2名の方の提出があって、2名とも異常なしという状況でございました。また、読影会の出席の委員の方々には、毛利委員、大田委員、保坂委員に昨年度はお願いしたところでございます。今年度、日程調整と出席委員の調整をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○永倉委員長 今、事務局さんから御説明がありました。

読影の委員について、これはもうお医者さんの専門分野でありますけれども、前回に引き続きまたお願いしてもよろしいでしょうか。そのあたりの御議論をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

○毛利委員 私は大丈夫です。

○永倉委員長 そんなことで、日程の調整はまた後日ということですか。

○大川幼児保育課長 そうです。

8月ごろというところを御了承いただければ、細かい具体的な日にちについてはまた後日調整をさせていただければと思います。

○永倉委員長 わかりました。

事務局さんのほうで、前回の委員の先生方と日程の調整等していただくということでよろしく願いします。

次に、次第の4に進みたいと思います。

「心理相談・健康リスク相談等について」ということでありますけれども、これについても事務局さんから御説明をお願いします。

○大川幼児保育課長 同じく資料第2号「平成29年度の予定について」の4番になります。あと8番です。「健康リスク相談・心理相談開催」ということで、昨年度は11月と3月に実施をしております、申込者はなかったということで開催はしなかったという状況でござ

ざいます。

委員の方につきましては、心理相談につきましては水流委員に、健康リスク相談については塩見委員に昨年度もお願いしたところでございます。

今年度についても、開催の時期と委員の調整についてお願いしたいと思っております。

以上です。

○永倉委員長 こちらについても、時期と委員については御調整をよろしくお願いいたします。ただ、これもせつかく毎年やっていますので、ぜひ出席が得られればと思うのですが、かなり落ちついておられるといたしますか、だんだん相談の必要がなくなってきたことが一つあるかもしれませんが、窓口としては維持していきたいと思うところです。

特に広報が不十分ということはございますか。

○森委員 難しい。

○永倉委員長 これは、定期的にやっているという情報は伝わっているのですか。

○長松委員 私たちは知っています。

○森委員 個人的に、子供に異変があれば相談しようというような。

○長松委員 今度の親子ミーティングのときに言わなければだめで、去年は言うのを忘れました。こういうものをやっているのだよと。

○永倉委員長 なるほど。こういうことをやっています、ぜひ御相談に来てくださいということを経験したお母さんにお知らせをさせていただくことになろうかと思っております。これについても、引き続きそういうことでやっていきたいと思うところです。

かなりさくさくと進んでいるのですけれども、次第の5に行きます。

これについては、先ほどもお話をしました親子ミーティングについてですが、前回のミーティングについての映像を武蔵大学の永田浩三先生、生徒さんがまとめてくださった映像があります。これは何分ぐらいでしたか。

○永田先生 全部で12分なのです。

○永倉委員長 先生から御説明をいただければと思います。

○永田先生 永田と申します。お時間いただいてありがとうございます。

昨年に引き続きまして、ことしもアスベストの問題について、私どもの武蔵大学社会学部メディア社会学科の学生たちがそれをテーマに取り組んでおりまして、ことしは震災アスベスト問題ということで現地をロケしたりしております。

場所は、福島県浪江町で、原発事故の影響をずっと受けて、アスベストを含んだ建材が瓦れきになっているのですけれども、そのままになっていたところをまず訪ねて、その後、阪神・淡路大震災のときに瓦れき処理に当たった方が、その後、中皮腫になって亡くなられたというケース、永倉さんが建物の解体現場の中でアスベストを含んだ建材が散乱している様子を見てチェックされている様子、それから、さしがや保育園の問題は最後に出てまいります。去年の集まりをロケさせていただいて、長松さん、森さんの親御さんのインタビューが中心に出てくるシーンでございます。

それではごらんいただきます。

(動画上映)

○永倉委員長 最後のところが、親子ミーティングの雰囲気 皆さんに見ていただきたいということで、きょうは流させていただきます。

これについて説明を。

○永田先生 音量の調整とか、そういうのはまだこれからなのですが、もし間違いがなければ基本的にはこの方向で編集を終えて、5月後半なのなのですが、東京エリアのJ:COMというケーブルテレビで、武蔵大学のドキュメンタリーアワーというのが54分の枠をもらってまして、その一つとして放送させていただければと思っております。

○永倉委員長 ありがとうございます。

この内容について、映っている方たちの確認がまずあると思います。委員会で放映をどうのこうのという判断はできないのかなと思うのですが、そのあたりのことについて、それはだめだよみたいなことも含めて、委員の皆さんに御議論いただければと思います。どなたか、御意見ございませんでしょうか。

○長松委員 私たちはいいですよ。

○永倉委員長 そうですか。

どうぞ。

○樋野委員 108人の子供たちの意見はどうですか。

○永倉委員長 そこはまだ聞いておりません。

○長松委員 でも、本当はあそこにいた子供たちもインタビューを受けているのですが、先生に切られてしまったのですが、全員オーケーというので了承はとっております。

○樋野委員 ナイブな問題で、そういうことを知ってほしくない人もいないのでしょうか。私は遺伝性のがんをやっていると、そういう人がおるわけです。だから、片一方の人は積極的だけれども、一方の人は知ってほしくないという倫理的な問題はどうか。

○永倉委員長 そのところだと思います。

○永田先生 いろいろな御意見があると思いますので、誤解なく伝えるというハードルがまず一つある。それから、会場で嫌な方は撮りませんということは一応申し上げながら撮影はしたつもりなのですが、当時園児さんだった方にアップでいろいろお話を伺っているものがあるのですが、それは影響が大きいかなと思って、それは外して、長松さんと森さんを中心に描いているということで許していただけるかなというふうには思っていて、ただ、全部責任がとれるのかというと、そんなことはできないわけですから、リスクはゼロではありません。誤解を生む人もいるかもしれません。

でも、この問題があって、真剣に取り組んでおられるということは肯定的に受けとめようと私どもは思いましたので、現に水俣病等も含めて、もう世界最大の健康被害であることは間違いありませんし、この問題は逃げていられないと思いましたので、その理解を広

げることのほうを選ぼうということをつくらせていただいて、それはもちろん園児の方、御家族の方にリスクを負わせることになるのですけれども、それでも理解を広げるほうがよいだろうという判断をさせていただいて、きょう持ってまいりました。

○樋野委員 反対というのではなくて、家族によって、人の前で言うのは何の問題のない人もおれば、一部の人は話してほしくない人がいるのです。そういうときに我々はどのように対応をするかというのが、今非常にナイーブな問題になっています。

阪神大震災とか、そういうところで大人が暴露されて中皮腫になった人は、今度、私は大阪のアスベスト中皮腫の患者会で講演を頼まれているのですが、この前の尼崎の講演でもみんな来ていましたよ。そういう人たちはアスベスト問題を国民に知ってもらいたいという思いでやられているわけです。

でも、ここは保育園のときの暴露で、まだ20歳ぐらいでしょう。これから結婚をしたり、社会に出たりするわけです。私はまだ子供たちと接していないからわかりませんが、非常にナイーブなところがあるではないですか。自分から言うのはいいですよ。自分から「私は幼いときにアスベストに暴露された」と自分の責任で言うのはいいのだけれども、その子が余り知ってほしくないときに、周りがそういう環境をつくることに対して家族はどう思われるか。私はいい悪いではなくて、ただ聞いているだけなのです。

男性の場合はまだいいのですけれども、女性でこの前もそういう子が来たのです。まだ大学生で、就職もしていなくて、結婚もしていなくて、そういう子が自分が今度社会に出て、結婚をするようなときに、そういうことを余り知ってほしくないということを言う子もおるのです。そこをどう思われるかということなのです。

○長松委員 そのためにここの委員会があるのです、先生。私は男性も女性も変わらないと思います。別にアスベストは生殖に何の影響もない。もしそれを言ってしまうと、男性が一家の世帯主となって死んでしまうほうがよほど大きいかもしれない。そこは私は全然考えていないのですが、そのためにいればいいと思うのです。

○樋野委員 それは、全体的に一人でもそういう子がおるかどうかということを知りたいのであって。

○長松委員 それはわからないのではないですか。

○樋野委員 そこなのです。

○長松委員 そうしたら、このさしがやの委員会を立てて、文京区でこういうことがありましたと言っている時点で、存在し得ないではないですか。だって、みんなに個人に送っているのですよ、先生。それよりも利益を、例えばエックス線をする、親子ミーティングをするというのはそのリスクを承知の上で、本当のことを言い、前向きにということだから、そういう見地に立たない限り、何があっても受けとめようと文京区の人が先生にも私たちにもお金を払ってこれだけ集まってくれているのです。

○樋野委員 それは、国として、官僚として当然。これは環境発がんだから。環境発がんというのは、無意識のうちに暴露されたところに悲劇性があるから、これは国とか官僚が

やらないといけないわけです。ただ、私が言わんとするのは官僚がやることは当然だけれども、その108人の子供たちでナイーブになっている子がいないかどうかを聞いているのです。

○長松委員 それは、この方たちが起こしたのだから、私たちがこれを放映しようがしまいがずっと抱えている子は絶対にいるのです。私たちの人生が影響されるのかと聞いたら、とんでもないです。ただそれをポジティブな面にも少しはしたいと思って、絶えず葛藤している。

○樋野委員 だから、それはいいですよ。

○長松委員 わかります。だから、この方たちが108人がどうなのかを考えなければいけないのかもしれない。だけれども、それと永田先生が放映されることと、勇気を持って生きてもらうこと、社会へのということなのだと思うのです。

○樋野委員 だから、永田先生がつくられることはいいのですよ。私が言わんとするのは、108人の子供たちで知ってほしいという思いがない子がいないかどうかを聞いているのです。

○長松委員 もし、一人でもいたらしてはいけないのですか。

○樋野委員 それは、どういうふうにその子と話すかなのです。これが教育だから。

○長松委員 そうだけれども、あそこになかった人に、あそこに行ったかどうかで状況が変わらないわけです。あそこにちらっとでも映っている子が1人でも嫌だったら、それはだめです。それは削除しなければいけない。

○樋野委員 でも、それは映像に出ているから問題ないでしょう。

○長松委員 あの人たちはいいと思うのです。でも、あそこに来てもない、絶対抱えている人はいるのです。あと、ハッピーに考えていない人もいる。いろいろまじっているけれども、その人たちがあそこにはいないのかかわらず、あそこで顔を張って出ている人たちのことまで否定する権利があるかということも倫理的にある。

○樋野委員 自由意思だから、それはないです。

○長松委員 もちろんです。

○樋野委員 私が言っているのは、問題は108人の家族がおられるから、その子供が一人でもどういうふうに思っているかを親が聞くのは大切なことだから。

○長松委員 先生、それとあのビデオを放映するのとの関係がありますか。

○樋野委員 それは自由意思だから、関係はないです。

○長松委員 ちょっと違うところへ行ったかもしれない。

○永倉委員長 ちょっと視点がずれるかもしれないのですけれども、この映像を見ていて思うことが一つあって、それは福島原発事故で被災に遭った子供たちが全国に散らばって、風評被害といいますが、いじめに遭ったりしている。それは何の責任もない子供たちがある種の偏見で被害に遭っている。その子供たちに何も責任はないのだよという発信を我々がしなければいけないのだと思うのです。その材料として、こういうことがあって、



こういうふうに大人たちが頑張っているというメッセージは大きいのかなと私自身は思っているのです。

○樋野委員 メッセージはいいのです。あした、私は福島に行かないといけないからということもあるのですけれども、メッセージはいいのです。自由意思で、いろいろな立場の人が自分でいいと思うことを。

私が言っているのは、108人の子の中に知ってほしくないという子がおるかどうかをちょっと知りたいだけなのです。

○永倉委員長 それは、今の段階ではわかりません。

○樋野委員 だから、108人の皆さんは親がおられるでしょう。それは長松さんのような親もおられるし、そうでない親もおるではないですか。私は108人の子供が実際に何を考えているかというのをどこかで知っておかないと、周りがこうこう言っても、その子たちが大人になって社会に出たときに、やはりひきこもりになる子が出てくるわけです。それを今のうちに108人の実態を知っておきたいということだけなのです。

○永倉委員長 実は、前回のここの議論の中で子供たちにどう伝えていくかということについて、東先生のほうから、それはきちんと学会で発表できるような形でというお話があって、それについていろいろこちらでも考えて、皆さんにアンケート調査をしたりして、やはり108人は難しくても、マジョリティーの意見を集約するような作業ができないかということで長松委員と相談したりしたのですけれども、それはやっても回収率が相当悪いぞみたいな話で、どこまで有効かということもあったのですが、先生がおっしゃるとおり、今、子供たちのみんなが何を考えているか、そこを知ることは非常に重要だと思うのですが、そのやり方がよくわからない。

○樋野委員 今度の土曜日に、日本産業衛生学会でアスベスト中皮腫のシンポジウムがあるのですよ。これは阪神大震災の人たちが中心になってやりますけれども、私が先ほども言っているように、108人の子の一人一人の気持ちをいつかは知っておきたいというだけなのですよ。

○長松委員 108人全部は無理でも、何かの形をやっていかないといけませんね。

○樋野委員 やっていくことが重要。

○永倉委員長 来年考えているシンポジウムというものは、そういう材料にしたいなということがあるのですが、東先生、いかがですか。

○東委員 今、アンケートのお話をされたと思うのですけれども、それは一つの方法としてやってみる価値はあるかなと思うのです。ただ、回答がない方で、一応連絡が今とれるようには108人の方がなっているという理解でよろしいですか。

○永倉委員長 そのあたりはほぼ。

○東委員 リスク相談も含めて、連絡をとれている状態にはしているわけですか。

○長松委員 とれているのですか。メールアドレスとか何かしていかないか。

○東委員 そこが実は心配なところでもあるのですけれども、もし連絡がとれて、アンケ

一トがとれるのであれば、返ってこないということは、余りにも関心が薄れられていることも一つ言えるかもしれないというもありますので、一度とってみて、どういった反応かという、先生がおっしゃったような108人の方の御両親と当事者のお子さん方のお気持ちを確認するというのは一度やってみてもいいのかなという気は今御意見をお伺いしてしました。

○永倉委員長 どういう形のアンケートにするか、なかなかイメージがつかないのです。

○東委員 中身は配慮しないとイケないですね。

○永倉委員長 ちょっと考えてみてというのはあるのですが、その結果をまたシンポジウムなどで発表できれば、それはそれで意義があるかなと思っているところなのですが、ほかに何かございますか。

○長松委員 中心たる親御さんがお子さんに、よかったら書いてみてとって。子供の連絡先がわからないのです。当時の親のところ、いろいろ離婚したり、引っ越したり、あとはお子さんが大学で地方に行ったりされています。でも、去年やったら子供たちの横が繋がったのですよ。人数は少ないけれども、そうやってLINEなり、いろいろなものでやるのが今後連絡網ができてくるのではないかと思います。どうなのでしょう、難しい。当時の赤ちゃんだって、今二十歳になっている子なんてすれ違ってもわからない。

○森委員 ちょっと話がずれるかもしれないのですが、暴露した直後に保育園で親に対する説明会みたいなことがあって、あのときの感じでも、1回聞いて、お子さんへの伝え方はわからないのですが、大丈夫だみたいなことを言う人も中にはいらっしゃるわけですね。それを聞いている子供たちは、今どうなっているのかはわからないのです。

あと、これはもうこちらの恥ずかしい話で、あの人が委員をやっているのだったら私は行かないとか、やらないみたいなことまであった。当時とにかく物すごくパニックですから、何が自分の子供に起こったのかわからない状況で、その中で親御さんは、安心ではないのですが、そうやっていろいろ分かれたというか、こんなことを言っているのかどうかかわからないけれども、そのときの親御さんの状態というのはかなりばらばらだったというのが今思い出すとあります。

○永倉委員長 でも、それは非常に貴重なことなのではないかなと思います。

○長松委員 子供はまっさらかもしれない。

○森委員 私は、メーリングリストをやりませうみたいなことを言ったのですが、しないほうがいいみたいなことを直接言われるようなことももちろんあったので、先ほどの話とつながるのかどうかかわからないのですが、私の感じでは、かかわらないようにしようというふうに、何かあったらおじさんに言えばいいのじゃないかなみたいなことを言われることも当時はありました。あとは自分の子供のことがあって、長松さんと何名かの方と続いているというか、話をしている。

○永倉委員長 最初は毎日毎日が嵐でしたね。

○森委員 あの暑いとき、そうですね。

○永倉委員長 それがだんだんと整理されてきて、子供たちに伝えるものがだんだんとでき上がってきてという経過が非常に重要だと思うのです。

○森委員 その後、親御さんがお子さんにどう伝えているかということまでは、私たちは推しはかれないというかわからない。でも、会うと声をかけていただける方も何人かはいらっしゃって、でも、私のことを見ると嫌だという方も実際にいらっしゃいます。

○東委員 そういう意味では、その後、どういう形でコミュニケーションをお子さん、親御さんを含めてとられてきたかということとか、樋野先生がおっしゃったように、触れたくないというお気持ちの方もいらっしゃるかもしれないところもあるかと思うのですけれども、そのあたりで108人の方は恐らく千差万別で、お気持ちをずっと抱えていらっしゃる方々がいらっしゃると思うので、そのあたりをどこまで整理できるような機会があったらいいのかなという気はします。

○樋野委員 今、そういう時期に来ていると思うのです。我々は中皮腫アスベストの学者的な面で語りますけれども、人間的な責任で手を差し伸べないと、そここのところをアスベストという予防もできない病気だから、それはなったときの心構えということになりますから、それだったら今どういうことをやるか、ちょうど今は過渡期に来ているのではないですか。

○長松委員 ここ2～3年で連絡をとらないと、子供は離散だと思います。

○森委員 今のうちにですね。

○樋野委員 せつかくこの会があるから。

○長松委員 よくも悪くも委員会があります。

○水流委員 つながるかと思うのですが、今まで保護者が当事者というか積極的においでになっていたのですけれども、前もこういう話題が出たと思うのですが、これから親御さんも老いていって、その先何十年というのはお子さんたち御本人が当事者になるわけです。その辺をどう考えたらいいのか。今、先生がおっしゃったみたいに、本人の気持ちとか、一番そこが大事になってくる。

○樋野委員 それもナイーブな問題で、どうしたらいいかわからないのです。だから私は、森さんとか長松さんというアスベストに暴露した家族の人がいますでしょう。まずその2人が108人の御両親なりに話して、一軒一軒歩いてみるとか、そういう情報が1回我々にあると、今後どうしたらいいかという方向がわかるではないですか。そここのところを今せつかく2人おられるから。

○長松委員 この2人は余り適任ではないと思う。

○森委員 私は先ほども言ったように、緊急の夏の暑いときの温度差というのを感じて、皆さんそれぞれにということは今伝えるしかなくて、それを私が再コンタクトをとってみたいなどころになると、ちょっと話は違うのではないかな。

○樋野委員 だけれども、これは我々が言うよりもずっといいのです。それは何を言った

かではない。誰が言ったかだから。

○長松委員 そういうことは今井桂子しかできない。

○樋野委員 だから、お二人が一番適任者ではないですか。

○長松委員 私たちは全然だめで、それは前の委員をしていた今井桂子さんは人望があるのです。私たちは瞬発力なので、人望がないから。そういう意味では今井さんがやってくればあれなのかなと思います。でも、どちらにしろ108人集まるといっても、今コンタクトをとれる子供は5人ぐらいしかいないのだから、6人だろうが7人だろうがふやしていくという意味ではいいのではないのでしょうか。

○樋野委員 いいのですよ。

○長松委員 台帳みたいなものがあるって、それも子供に切りかえられるようになっていくわけですし、先ほどの委員の話であれば、自分がやりたいという人は1人いますので、もう二十歳を過ぎていますし、いいのではないのでしょうか。

○永倉委員長 台帳を切りかえるタイミングは、例えばアンケートをとるタイミングかもしれないですね。

○長松委員 いいと思います。

○永倉委員長 そのときに来ていただいた方に書いていただくみたいな、それは一つの。

○長松委員 でも、あのころはなかったけれども、メールというものができたので、メールとかLINEとか本当にあらゆるものをいただかないと、私たちみたいな古いやり方だともう連絡は若者につかない。

○森委員 ツイッターのようなものがあれば。

○長松委員 わからないのですけれども、サイトでアンケートしたりするではないですか。そういうところも事務局の方にお考えいただいて。

○永倉委員長 非常にすばらしい議論ができたなと思って、108人の子供たちが何を考えているかというのはなかなか難しい問題ですし、知らなければいけない課題かなと。

○樋野委員 文京区の教育委員会とは関係ないでしょう。

○永倉委員長 保育課さんとはまた違うのですか。

○樋野委員 がん教育をするということで、この間、教育委員会が順天堂に来て、契約を結んで、今年度16校に行ってがん教育を教育するのです。そういうことが決まって、小中高で小学校は20校あって13校ぐらいに行くのです。何をするかというと、がん教育という冊子をつくって、こういう漫画なのです。こういうものを授業で学校の先生が教えるということなのです。当然発がんだからアスベストとか中皮腫の問題も入るわけなのです。そういう時代になってきているから、この会がやはり重要な会で、がん教育というのも含めて、全国に発信すべき役割を持っている会だと思っているのです。しつこいけれども、108人の子供のね。

○永倉委員長 手探りでいろいろなことを考えながら、いろいろつくっていく必要がある時期に来てしまっているのだと思います。

○森委員 5～6年前に子供たち用に冊子をつくったのです。

○樋野委員 そういうものも見ましたね。

○森委員 先ほども行ったように、あれがどういう反応なのかはそれぞれであって。

○樋野委員 あれは、学校の教育には使っていないでしょう。

○長松委員 使っていないのではないですか、きっとそのまま終わっていますね。

○樋野委員 子供は見てもいないでしょう。

○森委員 だから、それを親御さんがどう扱っているかというところまでは推しはかれないみたいなどころがあります。

○長松委員 でも、1回ではきっと無理だから、来年やるのに上乘せしていったらどうでしょうか。先生が一書子供たちに書いて。

○樋野委員 ここでこんなことを言うと悪いけれども、私は文京区とか世田谷区とか新宿区とか豊島区の小学校に授業に行くのですよ。ところが、文京区の小学校に数校行ったら誰も寝ない。ほかの小学校の子は寝る。何でかと思ったので、一つ質問したのです。それはこんなところで話すのはあれだけれども、因幡の白うさぎを知っているかと私は小学校に行ってみんなに聞くのです。ほかの小学校よりも文京区の小学校の子供が知っている率が全然高い。それは何でかという、ほかの区の小学校と違うのは、親が漫画を与えている。ここが文京区の特異性だと思っているのです。だから親が立派というか、そういう文京区によさというか、ほかのところとは違う何かがあることを知った上で、こういう会をやっていると、さらにバージョンアップするではないですか。これを今アピールするときではないかなと思って言っただけです。

○長松委員 ありがとうございます。

○永倉委員長 いろいろなイメージが少し湧いてきて、やはりやるべきことがまだまだあるのかなと思います。

それと、DVDの扱いについて今御議論いただいたように、みんながどう思っているかという事は前提としてありますが、この委員会でなかなか結論が出せるものではないので、先生と保護者と御相談をいただいた形で扱いを決めていただければと思います。そういうことでよろしいですか。

○東委員 DVDの中身で少しよろしいですか。

流れとして、東日本大震災のアスベストの件と、阪神大震災でアスベストが飛散して5人の方が中皮腫で亡くなったというお話が出てくるのです。その後、文京区の話が出てくるのですけれども、暴露のレベルとしては少し違いがあると思うので、余り同じ系列で文京区さんの事例が扱われないようにしたほうがいいのかというのが気になったところなのです。このままでいって、文京区さんの今回の事例で多くの中皮腫の方が出るのだというイメージにとられないように、気をつけたほうがいいのかという気はしているのです。

先ほどからの議論で、108人の方のいろいろな思いもあると思うので、余り過剰にリスクが大きいという形にとられないように、場合によっては専門家の方に少し説明を加えてい

ただくとか、意見をいただくというのが中に入ったほうがもしかしたらいいのかなという気はしたのですけれども、そのあたりはいかがですか。

○永倉委員長 どうでしょうか。

○東委員 ちょっとナイーブなところの話ではあるのですけれども、中皮腫というところで亡くなった方の事例も出てきた後に文京区さんの事例が出てくるので、同じようなイメージで、必ずしもそういうことが起こることがはっきりしているわけではないので、余り余計な不安とか心配にならないようにというのがあったのです。

○長松委員 今までもリスクアセスメントが終わっていますので、がんになる確率はゼロではないけれども、極めて低い。しかし、暴露したことには変わらないし、子供が暴露したことはないので文京区が責任を持ってやるというモデルとして、これに取り組んでいるのでとキャプションを入れていただいたらどうですか。

○東委員 長期にわたって健康管理を行っているようなものであるという。

○長松委員 リスクが少ないから見逃さないという、ポジティブにしていただけたらいかがでしょうか。

○東委員 もしかしたら、見逃せない範囲で今は取り組みを行っているというところも、文京区さんの説明が少しあったほうがいいのかもかもしれないなという気はしました。

○長松委員 そうすると、文京区が頑張っているという宣伝にもなる。

○東委員 その宣伝は、ちょっと私は。

○永田先生 学生のナレーションでもいいでしょうか。

○東委員 学生さんがそういうナレーションができるのであればいいのですけれども、ナレーションであれば、ナレーションの中身を少し御検討いただいて。

○永田先生 わかりました。それはお約束します。

○樋野委員 もう一つ、先ほど森さんに聞きましたけれども、さしがや保育園というのはまだやっているでしょう。

○永倉委員長 はい。

○樋野委員 そこの人たちが、さしがや保育園というのがぱっと出るのに対してどうなのですか。

○毛利委員 そうというのは、もう既にあったということが公表されているわけですから、そこはもう言ってもしょうがない問題です。

○永倉委員長 インターネットで引いても出てくる。

○毛利委員 それは事実として公表されて、もう確立されていることですから、そういったことはもう一々言うことではないと思います。

○永倉委員長 何かあれば、ほかにいかがでしょうか。

非常にドキュメンタリーとしてはいいというか、私は現状がどうなっているかというのがわかって、なかなか一般には知られないような情報が含まれている。子供たちにどういうふうに見られるかという問題は確かにあるのだらうと思いますけれども、きょう見せて

いただいて、いろいろな貴重な議論ができたことに感謝したいと思います。そういうことでよろしければ。

どうぞ。

○大川幼児保育課長 事務局から発言をちょっとお許しいただければと思います。

今の言った内容についてですが、やはり改めて確認をさせていただきたいというのが1つと、先ほどちょっとお話があったように、去年外に出ることを了承されてこれを撮られたという発言をしたのですけれども、皆さんはそういう理解で去年のミーティングの撮影を委員会として許可したというスタンスでよろしいのでしょうか。

映っている方一人一人は出ていってしまうわけで、その一人一人はこれが公になるところの確認というのはやはりしっかりしなければいけないと思うのです。去年は私はいなかったのだからわからないのですが、外に出て放映する可能性もありますよ、よろしいですねというところの了承を得た上で録画をしたという認識でよろしいのでしょうか。

○永倉委員長 確かにはっきりとは言っていないかもしれないですね。

○長松委員 でも、子供はほとんど映っていないですけれども、子供と親にはおっしゃっていただきました。私とそこにいる子供ぐらいなので、ほかはわからない。

○永田先生 でも、了解を得ながら撮影はした。

○大川幼児保育課長 ただ、それは記録として残しておくのか、それとも、もうそういった一つの研究として外に出るのかというところの。

○永田先生 それは、放送になる可能性もあることは。

○大川幼児保育課長 もし、支障がある方は申し出てくださいというところをちゃんと許可をとっているのは、委員会としてそういった形で去年なされたという認識であるならば、了解を得られているという判断はどうかと思うのです。

○松井資源環境部長 前回のミーティングのところに私も入っていないので一つ確認なのですが、そこにいらしたお子さんには今言った説明ができています。ただ、一番心配されているのは、そこにいない108人のうち来ている人は何名かだけれども、来ていない人もいるわけですね。

○長松委員 でも、来ていない人のものはいいと、樋野先生も私たちも今話が回ったところですね。

○松井資源環境部長 108人の方のうち、ミーティングに来られた方何人いたということ。

○長松委員 ミーティングに子供は7人ぐらいです。親が10人。

○松井資源環境部長 そういうことでしょうか。ですから、その方には了解をとれているけれども、それ以外の方には流すことでの支障について確認がとれていないのではないかと心配をされていると私は理解しているので、その場では説明をされたというところで。

○毛利委員 一般的にそこまで了解を求めるようなケースというのはあるのですか。

○松井資源環境部長 そういう意味では、先ほど私が了解したのは、この委員会ではそこ

までは難しいけれども、その前提として、保護者の方と108人の部分を確認した上で進めてくださいということで、委員長は先ほど最終の締めをされたということではないのか。

○永倉委員長 そうではないです。この委員会ではそこまで言う権限はないと考えています。それは永田先生が御判断されなければいけないし、永田先生と親であったり、映っている人との関係なのです。

○長松委員 映っている人ですね。

○永倉委員長 この委員会としては、そここのところの議論は非常に重要な議論なので、きょうはそういう提起もさせていただいたし、それを参考に永田先生にさせていただければという趣旨なのですが、この委員会そのものが放映する放映しないに関しての権限は持ち合わせていないと思っています。ただ、文京区の職員の皆さんも映っていることはあるので、それはそれで別途判断があるかもしれません。

○長松委員 それが嫌だという方は、モザイクをかけていただいたらどうですか。

○永倉委員長 永田先生、モザイクはちょっと。

○長松委員 わからないのですけれども、確かにモザイクをかけるとその人が悪い人みたいに見える。

○永倉委員長 嫌だなという感じがするのです。

○長松委員 映りたくなかったら、その主張もあるのでモザイクをかけていったらいい。

○永田先生 そういう嫌な方は、そういう対応をしないといけないと思います。

○長松委員 まずは、この委員会があくまでも全体がどういうスタンスかというのを確認していけばいいのではないかと。

○永倉委員長 そうです。そういうことがありましたという御報告と、親子ミーティングの雰囲気はこんなことだと皆さんに共通認識させていただければという趣旨で、きょうはお越しいただいたこととなります。

○樋野委員 大川さんと松井さんが言われた、これは倫理的な問題なのです。だからその倫理的な決定というか、この委員会はそれをしないということを明確にするのは一つの手であるし、その決定は誰の責任でやるかという責任者が明確になれば、それはいいのですけれども、そういう意味ではこれが曖昧であると文京区は困るから。これはもう倫理的な問題だから、責任者が誰かというのを明確にして、誰が決定したかということが明確になっていけば、それはいいわけなのです。誰も100%賛成なんてあり得ないから。そここのところの明記を、先ほどの質問ではファジーになっているということです。

○毛利委員 でも、こういうものは大体その当事者ではないですか。その場にいる人たちの了解でいいのではないですか。

例えば、この委員会の様子を記録してオープンにするというのだったら、それは我々がその当事者だから、オーケーを出すか出さないかを決めたらいいけれども、ミーティングは何も委員会が全てを取り仕切っているわけでもないわけですし、そこに参加している人たちの意思で、私たちはこういうふうに乗って、きょうこういう話をしたということ



をオープンにしたい気持ちがあるのだったら、それに従えばいいと思います。そこを我々がコントロールできるものではないと思います。

○長松委員　うちの子たちが勇気を持って答えたのは、今回カットされてあれですけども、それを文京区なり、この委員会が差しとめて倫理的なのかということも考えていただきたいと思います。森さんのところは来なかったのですけれども、うちの子たちや20人近くの人に参加して、真摯に答えて、放送してくれると思ってつくってもらったものをここでだめにするのであれば、それも倫理的に了解を逆にとってほしいというニーズもあるのです。

○樋野委員　ちょっと毛利先生と言うことが違っているではないですか。

○毛利委員　何が違うのか、先生。

当事者が決めたらそれに従えばいい。

○長松委員　当事者が映してほしいというニーズを吸い上げてほしい。それを関係ない人たちが途中でやめてというのも、同じように倫理的ではないですか。

○樋野委員　だから、言っているのは108人の子供たちがどうかということを知っているのであって。

○長松委員　それは調べたらいい。そこは先生。当事者です。

○毛利委員　先生、そこの言い方はおかしいです。

○長松委員　おかしいというか、それはそれで大事けれども、映っている分に関しては。

○樋野委員　もう時間がないから。

○毛利委員　話が混線しています、先生。

○塩見委員　でも、このセミナーのところにも、幼児保育課へと問い合わせ先が書いてあるので、文京区の方の了承も要りますね。

○毛利委員　だけれども、もしそういったところで問題が起こったとしたら、それを解決のために我々が全力を尽くすというのがこの委員会の本来の趣旨だと思うのです。そうではないですか、そうでないと意味がないです。これは問題になりそうだから隠しておこう、これは問題だからもうやめておこうということにするのだったら、初めから何もしないほうがいいです。

○長松委員　どんな問題があると想定されているのかが意味がわからないのです。

○水流委員　ただ、その主催者が幼児保育課しか書いていないです。

○長松委員　それは私がつくったのですけれども、よかったらどうぞ、どうにでもしてください。去年も私がつくって、ことしもつくってくれなくて、だから私が配っているのです。

○水流委員　だから、ここがこうなっている以上、やはり外に出すということであれば事前に了解も必要だったかなと思います。

○永倉委員長　実は経過で言うと、私が一番の責任者で、映像で撮ってもらうことが重要だと判断して、永田先生を勝手にお呼びしたのは私なので、そういう意味では最終的な責

任者は私だと思います。

○長松委員 だから、今度のときは了承したらどうでしょうか。

○永倉委員長 それは、ぜひそういう議論でお願いしたいと思うのです。

○長松委員 それは大事だね。

○永倉委員長 今回のことについては、クレームとかいろいろ非難があれば、私が責任者ということになっています。

○長松委員 永倉さんではないですよ、むしろ永田先生です。

○永倉委員長 共同責任ということです。

○長松委員 ちょっとわからない。

○永倉委員長 いずれにしても、ドキュメンタリーというのはどういう範疇なのかと私はよくわからない、ちゃんと考えたこともないのですけれども、先生がおっしゃるように、108人の子供はどうなのかという重要な議論もあるし、その上で、知ってもらったほうがいいということもあるのかなというふうには思います。それは永田先生がおっしゃるようにリスクがあるし、そのリスクで最終的に誰が責任をとるのかということになれば、それは私と永田先生でいいのかなと、とりあえず思います。

御議論とか御異論とかあれば、またお話しいただきたいです。

○樋野委員 これは個人の責任ではないのです。それは永倉先生とか永田先生が最後に責任をとりますといっても、世の中はそういう目で見ないから、それは文京区の委員会なり、文京区の責任を感じますから。

○長松委員 でも、悪いのは文京区ですよ。だって、うちの子たちに暴露させた。

それはそうです、先生。だから、ここでお願いしているのではないですか。これが子供たちやここに出た人たちで、全然いけていない仕切りなのにすごく成功したのですよ。先生、皆さんいらっしゃらなかったではないですか。あれがどんなに大変だったかを考えてほしいのです。それがうまくいって、子供たちが勇気を持って前に出てうまくいったことなのに、何で本人たちがいいというのにけちをちつけるのか。だったら、うちの子やほかの人たちに説明してくださいと思います。姿があらわれないうちの子供たちのために頑張っ顔を出してきて、ほかの子の人たちのために、あなたたちがやらないからカフェをことしもやろうとしている人たちに、それが倫理的、教育的ですかと言いたいです。

○樋野委員 それはナイーブです。

○長松委員 そうですけれども、ナイーブで隠してしまったら、毛利先生がおっしゃったとおり何にもできないのです。差別されようが何だろうが、顔を出して、嫁に行けないと先生にここで言われながら、親の私がどんな思いで聞いていると思うか。私はどうですか。顔を出して、私が教員をしながら、母親をしながら生きているのが平気で喜んで出ていると思いますか。だけれども、108人の子供のことを考えて、私は自分のためにやっているのです。20年間こんなにやっているのに、来ていない人ではなくて、来ている人の身にはどうしてなってくれないのですか。自分の子ではないから一生懸命考えない、自分たちが出

たくないから、ちょっとでもクレームをつけられたくないからやりたくないとか聞こえないのです。

その見えてこない人たちにどれだけがあって、こうやって体を張っている私や私の娘や今井さんのお子さんやそういう人たち、私たちが出なければ、森さんのお子さんだって傷つきますよ。そういう人たちに対して、どう説明して配慮してくれるのか。

確かに永倉さんの今回のやり方はいけていないのです。だから、ことしやろうと思って、きょう永田先生に来てもらったではないですか。だから、お願いしているのです。私たちを、この機会を無駄にしないように、どうやったらこの官僚のくだらない機構の中で私たちを助けてくれているかと、1時間もかけて話をしているわけです。それを108人の子と言われてみてください。私たち18年間嫌われようが、何だろうが、最初からおっかないと言われながら、罵倒されながらも、108人の子のためにやったからこの委員会があるのでしよう。記録が残っているのでしょうか。

108人の人に先生が聞いてきてください。私たちの話なんか聞くわけじゃないではないですか。この人たちがやればいいではないか。今を映して、永田先生。その声はどうやったら届くのですか。せっかくうまくいったのに、このまもうちの子供たちが一生懸命やったことは放り出されてしまうのか。一人一人が考えてくださいと言いたい。

以上。

○永倉委員長 ほかにございますか。

私は、長松さんの意見にかなり賛成といいますか、当事者の声が一番反映されるべきだと思っております。いろいろ現実を見て、映像とか文章でもいいと思うのですがけれども、見てもらうことでそれがみんなに伝わるし、言ってみれば偏見みたいなものがあるとしても、それが克服されなければいけないと思えば、それはどこかで出していくものなのかなと思っています。ただ、余りきれいごとばかり言ってもしょうがないのです。

○長松委員 当たり前ですよ、うちの子は嫁に行けないのですか、先生。どこが恥ずかしいというのですか。だから言っているのではないですか。

○永倉委員長 大丈夫です。行けます。

○長松委員 そういうふうにおっしゃったというのなら、議事録に残してください。先生、うちの子に会ったらそういうのですか。それをはねのけるために助けてくれる委員会かと思っていました。

○永倉委員長 いろいろな貴重な議論も含めて問題提起をしていただきました。こういうことになってしまった原因は私にありますので、それは申しわけないと思います。ただ、やはり貴重なことですので、永田先生にはいろいろ調整していただいた上で、ぜひ日の目を見るようお願いしたいなと私自身は思います。

○長松委員 大川さんはどうなのですか。

○大川幼児保育課長 難しい問題だと思っています。ただ、何というのですか、後で私もじっくりと確認はしたいと思いますが、今回のDVDに関しては、間違いなく映っている方の

同意というのは必要だと思うのです。私が聞いたのは、映っているミーティングに参加している人たちの同意は了承を得た形で去年は撮られたのですかというところを確認したかったわけです。

もう一つの108人に広げたといったところはやはり難しい問題で、そこは私もなかなかわからないですけれども、これが出ることによって、その人がどこかの世界で特定されてしまうところまで考えなければいけないのかどうなのか。そうしたら、何もできなくなってしまうので、おっしゃるとおり、この委員会の趣旨からはちょっとどうなのかなど思っていますので、まずは永田先生が作成して、ここの趣旨というところをうまくお伝えになりたいところの部分で、そこに映っている方々のところには御迷惑がかからないようにすべきなのかなと感じているところです。

ですから、長松委員は、映っている方々には少なくとも全員に了承を得ているという形でしたけれども、念のために一応改めて確認はとりたい、とったほうがいいのか。もしとれない人がいるのであれば、そこはちょっと編集をしていただくとか、ぼかしは入れたくないということであれば、映像的に御配慮いただければなど思っているところですが、いかがでしょうか。

○長松委員 大変結構かと思えます。

○椎名子ども家庭部長 私は出ていたわけですがけれども、もちろん長松さんの御意見もわかるし、確かに東先生のそういったかなりデリケートな部分は相当程度ある中でどうしていいか。映像はやはり一つにつながっていると、震災のときの映像は確かに御指摘のところもあるだろうな。そういうデリケートな問題はあるので、その辺は十分注意していかなければいけないだろうなというのは感じさせていただいたところですがけれども、今、大川から言ったとおりですが、かといって、せつかくのものをどうするのだということもありますので、それは映像の中でよりよいものにとということになるのかなと思えます。

○永倉委員長 わかりました。

そんなことで、永田先生にきょうの議論を踏まえて一任ということでもよろしいでしょうか。

○永田先生 東先生から先ほど御指摘いただいたことは修正いたしますし、こちらのさしがや保育園で、今、現実に患者の方が出ているわけではありませんので、その辺の誤解のないように、事故発生以降、ずっとその健康管理を続けてきていて、そのリスクをどういうふうに回避していくのかの取り組みが今も続いていることをちゃんと強調した形で締めるといふうに手直ししたいと思います。

○永倉委員長 どうでしょうか。よろしいですか。

(「はい」と声あり)

○永倉委員長 そのようによろしくお願いします。

○東委員 最後、一つだけ質問で、私も出していくことは賛成ではあるのですがけれども、今の先生のお話だと、まずは大学の中での。

- 永田先生 編集作業を。
- 東委員 使われる御予定ですけれども、先ほどのお話の中で大学でしたか。
- 永田先生 いいえ、東京のケーブルテレビです。
- 東委員 ケーブルテレビということは、そのまま全国にではない、契約者だけということですか。
- 永田先生 はい。全国ではない、東京エリアだけです。
- 東委員 まずはそれからということで、その後の御予定も考えられている。
- 永田先生 それ以上は全然考えていません。
- 東委員 まずはケーブルテレビからということですか。
- 永田先生 はい。
- 東委員 わかりました。それだけを確認させていただきたかったです。
- 水流委員 編集された後の確認はどなたかしていただけますか。
- 永田先生 3人の方に見ていただくと今考えています。
- 永倉委員長 そうしましたら、最終版を送っていただいて、その点を確認したいと思います。
- 永田先生 またお届けに上がります。
- 永倉委員長 よろしいですか。
- そうしましたら、非常にいい議論ができたのかなと思います。
- 続きまして、次は6、「シンポジウムの開催について」ということで、ことしは親子ミーティング、来年はシンポジウムということで議論されているところでもありますけれども、事務局から御説明をよろしくお願いいたします。
- 大川幼児保育課長 時間が押してしまっていて、申しわけございません。
- 次に7月1日に開催する親子ミーティングについてでございます。資料第3号をごらんいただければと思います。
- 「1 実施目的」につきましては書かれているとおりで、昨年同様、カフェというリラックスした雰囲気の中での親子ミーティングという形でやっていきたいと思っております。
- 日時は、7月1日の17時から1時間程度ということで、場所は文京区民センターの3Dの会議室というところを押さえさせていただいております。
- 周知方法としましては、これからここです承された内容で、5月下旬ごろに案内を送付して出欠確認をとっていききたいと思っております。
- 出席予定委員の方については、ここに書かれている委員の方へ出席をお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
- おめぐりいただきまして、進行は今年の例にとって記載させていただいております。一つ、今年度についても前半の(2)のゲストをどうするかといったところについて、お考えをお聞かせいただければなと思っておりますのでございます。
- 事務局からの説明は以上になります。

○永倉委員長 今回の親子ミーティングについての御説明です。

○大川幼児保育課長 そうです。

○永倉委員長 シンポジウムは。

○大川幼児保育課長 その後になります。

○永倉委員長 その後です。

○毛利委員 永倉さん、親子ミーティングなのですけれども、先ほどの議論でちょっと見えてきたところがあると思うのですが、実施目的として、書くかどうかは別だと思うのですけれども、当事者が親から子へと移っていくという、そこで中心となれる、次の核となれる人たちを育てていくといったらちょっと言葉が違うかもしれませんが、そういうことが表に出るかどうかとして、そういったことを意識したつくりが必要になってくるのではないかなというのをちょっと思ったのですけれども、時期的にどうなのですか。

○永倉委員長 いかがでしょうか。

○長松委員 そのつもりで去年から頑張ったのです。

○永倉委員長 受験にかかっているお子さんたちが少しいらっしゃるのだけれども、大学とかでも少し落ちついている方たちについては、やはりそういうことも含めてお話し申し上げて、興味を持っていただけるかどうかはまた別の話だと思うのですけれども、今後こういうことが必要なのではないかという問題提起みたいなのは、次の世代といいますか、元園児たちにはしていったらいいのかなと思うのです。

○森委員 先ほども申し上げたとおり、ゼロ歳が今、現役で通って、浪人生は何人かいる程度なので、ほぼお仕事をされているか、わからないですけれども、学校に行かれているという方だと思います。浪人生が何人か残っているかという。

○永倉委員長 どうやると来てくれますか。

○長松委員 まず、とにかく早く知らせないことには、ですから5月末と言わず、まず第一報だけでも送っていただかないと、今の段階で誰も知らないわけですから。

○森委員 先ほども申し上げたとおり、もちろん同世代でニュースを送った後に連絡をとる方法は割とよいのですが、突然というのも、こちらの都合なのですけれども、そして、来てもらえますかみたいな話にはもちろん、その後のフォローで皆さんにリアクションをとってもらって、先ほどのようにナイーブな問題のところをちょっとずつこちらがフォローしているみたいな感じになります。まずお知らせしてもらうことが大事だと思います。

○長松委員 ちょっと違うのですが、時間がないのでいっぱい言っておきますけれども、去年やった会場が22何とかという、この上でとても広くてよかったのですけれども、きょう見てきたら、こちらの3Dのお部屋はちょっと手狭かなと思いました。ただ、ちょうどいい60人の部屋がもうなくて、あとは250人の倉庫みたいなところしかなかったもので、もしあれば、このシビックセンターのほうがアクセスがよくて、区民センターというのは余りわからない。

○永倉委員長 私は、ここはなかなか入りにくいかなと思っていたのですけれども、どち

らがいいのかということもあるのです。

○長松委員 この部屋は狭いです。

○永倉委員長 エレベーターで、しかも、探さないとなかなか来られないので、わかっている人にはこちらのほうがいい気はするのですけれども、どうなのでしょう。

○長松委員 どちらにしろ、去年もそうだったですけれども、受付嬢のお姉さんも知らないし、何も張っていないからみんながうろうろしてしまったので、どこでやるにしろ、受付嬢の方にさしがやのものに来ましたといったらわかるように、それは事務局さんをお願いをしたいと思います。

また事務的な御用意のところはお願いしたいと思うのですけれども、ここでやるべきはこのプログラムの内容だと思うのですが、せっかく先生方が来てくださるのですから、永倉さんは委員長だからわからないけれども、アスベストのことをしていただければいいのですが、塩見先生や樋野先生、毛利先生にぜひお話しいただきたいと切望いたします。短くてもいいけれども、やはりここでやってくださる方というのは基本愛があるから来ていらっしゃるのです、子供たちにウエルカムメッセージを頂戴したいと思います。

あと、去年好評だったのは、永倉さんのマスクのつけ方と、保護者が全員前に出てやったのです。

○永倉委員長 そうです。全員前に座っていただいて座談会的に。

○長松委員 子供も言ったらいいと思うのです。去年は、子供は何人か核になる子が仲よしになりましたので、森さんに笛を吹いていただければいいと思います。

○森委員 笛ではないです。

○長松委員 そういうものを吹いてもらったらいし、榊原先生が教育的な配慮でお話してくださいでもいいと思うのであります。ですから、結構やることというのはいっぱいあって、椎名部長に御発言をしていただいて、だったら後ろもどなたか偉い方に、締めには区長さんとか来ていただけたら、成澤さんは暴露したときに区議員ですごくお世話になった方です。ですから、無理でも、ビデオレターでもいいので何か盛り上げていただけたらなと思います。そうしたら、あっという間に2時間が終わってしまうような気がいたします。

○永倉委員長 前は、愛知教育大学の榊原洋子先生に来ていただいて、これから学校の先生になる人たち向けのアスベストカリキュラムをつくっていらっしゃる。いろいろ自分でグッズもつくって、今の学校の先生になろうとする若い人たちはアスベストを見たことがないので何だかわからないということで、こういうものですよといういろいろな手づくりの物でお示しいただいている方がいらして、その人にも来てもらってお話をいただいたことがありますので、ゲストについてはできればまた榊原先生、永田先生にはお願いして、事前に文京区には御相談申し上げることにしたいと思います。

○長松委員 ばあっと講演会式でなくても、ブースに分けてもいいかと。でも、たしかここできょうやらないと次にもうなってしまうのですね。

○永倉委員長 そうです。だからここで決めないといけません。

場所はどうか、狭いという感じはあるみたいですが、もう変更できないか。

○長松委員 入りやすい、こちらでいいか。

○森委員 信号の前だし。

○永倉委員長 ここは広くていいのだけれども、入り口がわかりにくい。

○森委員 あそこは、ホワイトボードがぼんと張ってあるし。

○長松委員 新しいし、狭いけれどもいいか。わかりました。

森さんはいいと言っている。

○永倉委員長 確定でよろしいですか。

○長松委員 でも、絶対こちらに来るうっかりさんがいるから、こちらにも知らせておかないと迷子さんが出ると思います。

○永倉委員長 そうすると、これでもう場所、時間等は確定したことになれば、あとは御案内を早目に子供たち向けと親御さん向けと両方をつくっていただく。

○長松委員 子供向けでいいと思います。

○永倉委員長 いいですか。

○長松委員 親だって簡単なほうが。

私はこれを勝手に暫定でつくったので、健康でいるために知っておきたい5つのことなんて考えもしていないので、どうぞ、変えてください。あくまで早く出せるように、これのファイルをそのまま長谷川さんに送りますので、長谷川さんに任せました。

あと、保育課がいいのか、名前が変わったのかもしれないし、よくわからないので、あとはお任せします。

○永倉委員長 前は、長谷川さんに沿革について少し御説明いただいた。

○長松委員 上手にできたのです。

○永倉委員長 それがよかったです。

○長松委員 よかった。

○永倉委員長 またそれをどうですか、長松さん、少し手直しとかあれば。

○長松委員 もちろんバージョンアップし、これもどこかで流しておいたらいい。

○永倉委員長 そんなことでいろいろできるかなと思うのです。

○長松委員 やはり若者が話したほうが、おじいとおばあが言うよりもお兄さんがされるのがいいかと思いました。

○永倉委員長 おじいちゃんが孫に話しているような感じになりかねない。

○長松委員 それは、委員長がそうでしたね。

○永倉委員長 永田先生、映像をまたそのときに流していただくようなことでよろしいですか。

○永田先生 ちょっと直して、恥ずかしくないように。

○永倉委員長 とんでもありません。

そんなことで、親子ミーティングについては案内のほうをよろしく願いいたします。



議題については、シンポジウムについてですか。

○大川幼児保育課長　そうです。

○永倉委員長　よろしく申し上げます。

○大川幼児保育課長　来年度に向けてのシンポジウムについてでございます。資料第4号をごらんいただければと思います。

約20年を迎えるに当たって、親子ミーティングを発展させる形でシンポジウムを開催しようというところでございます。

開催は、平成30年度ということです。

会場は、一応文京シビックセンターのあたりを考えております。

シンポジウムの内容なのですが、今年の議論とかもあり、なかなかコンセプトが絞り切れないところがあると認識をしております。

ここで書かせていただいたA案というのが、過去の専門委員や当時の関係者をシンポジストとして招き、講演を依頼するのか、それとも、医学的見地からの研究発表というところに重きを置くのか、そういったところが議論にあったかと思っております。この部分について方向性をどうするかというところを御議論いただければと思います。

ですから、時間がない中で恐縮ではございますが、大まかな開催の時期、規模、コンセプト、こんなところを限られた時間の中でお話しいただいて、最終的な詰めは、次のところでもうちょっと具体的にどういった形にしようかというところを、主題としてやっていければと思っておりますのでよろしく願いいたします。

説明は以上です。

○永倉委員長　内容が決まれば、それに沿った予算という形になるということで理解していいのですか。

○大川幼児保育課長　そこでどういった中身でやるか、いろいろとあると思うのです。我々が手づくりでやるのか、どういった形でやるのかということもあると思いますし、予算なので、我々事務局だけで通るわけでもないというところがありますので。ただ、中身がある程度こういうものだよというところがないと、経費の積み上げもできないものですから、それは次回のところで大まかにやっていただければなと思います。今回は時間がない中で、方向性、コンセプトみたいなのはどうかかなといったところだと思います。

○永倉委員長　B案の医学的見地からというのはどうなのですか。当事者とか子供たちに伝えるということで、病気についての話も少しは必要かと思うのですが、むしろ当時何があったかということを経験した先生方にお越しいただいて、感想も含めてお聞きするというイメージを少し思っていたのですけれども、そのあたりはいかがでしょうか、何か御意見とかあれば。

○東委員　研究発表というのは、なかなか趣旨と合わないところがあるかと思っておりますので、例えばA案の中で当時の専門委員の方であっても、今でもアスベストにかかわっていらっしゃる方もいらっしゃると思いますので、その当時の委員の方がお話しされる中に、昨今のアス

ベスト疾患の新しい状況などを少し織り込んでいただけるような形ぐらいにされるのがいいのかなという気が私はしました。

むしろ、今回のシンポジウムの趣旨としては、事件という言い方がいいのかはわかりませんが、事件について改めて御理解を深めていただくことと、これからのお子さんにもこの件について考えていただくようなきっかけにさせていただくところがあるかと思うので、余り研究主体にならないほうがいいのかなと思いました。

○樋野委員 もう一度確認しますが、主催はどこなのですか。

○永倉委員長 これの主催は委員会ですか。

○樋野委員 文京区立さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会ですか。

○永倉委員長 主催はそうなりますか。親子ミーティングは対策委員会ですね。

○長松委員 でも、例えば樋野先生のところに共催とかしていただいて。

○永倉委員長 それは可能ですね。

○樋野委員 共催とかはできるけれども、主催が明確でない。

○長松委員 主催は文京区ですか。

○樋野委員 文京区がされるのか、この委員会がされるのか。

○永倉委員長 主催が委員会になるのか、文京区になるのかで、予算の関係でいうとどちらでもいいのですか。

○椎名子ども家庭部長 それは、どちらでも大丈夫でございます。

○永倉委員長 それは同じことですか。

○樋野委員 主催が明確になることと、対象は子供たちですか、親ですか。

○永倉委員長 これは両方ということになりましょうか。

○樋野委員 今度、土建が西東京市でシンポジウムをやるのですよ。これは土建関係の人たちが年間何人か中皮腫になっていますから、今、あそこの土建に入っている人が10万人ぐらいいますから、そういう人を対象にしたシンポジウムを西東京市でやるのですけれども、このシンポジウムは親子ということを強調される、文京区でやると明確にされておこうが差別化できていいと思います。

○永倉委員長 どちらがいいでしょうか。何か御意見ございますでしょうか。

○樋野委員 私としては、インパクトとしたら文京区がやったほうがいいです。

○長松委員 私も賛成です。

○樋野委員 それは全然インパクトがある。

○永倉委員長 委員会よりもね。

そういう仕切りは可能でしょうか。

○長松委員 樋野先生、できればがん哲学外来共催みたいな。

○樋野委員 それはできます。

○長松委員 議事録に残していただいて。インパクトが少ないけれども、聖路加も乗ります。

- 永倉委員長 文京区主催で、共催が幾つか乗るという形は可能ですか。
- 長松委員 お部屋は、下の一番大きいほうが無理だから、次の小さい2階にあるお部屋はどうですか。
- 樋野委員 あそこはいいところです。
- 長松委員 ちょっと上になっているところで、吹き抜けの側のところです。
- 樋野委員 チラシなどをつくられるから、もう一度聞きますけれども、主催でなくて共催でもいいです。共催にするときに文京区・ほかの共催・後援をする。そういうものを使い分けておいたほうがいいです。だからそういう意味で文京区が主催になって、この委員会も共催になってもいいのです。文京区はもっと広い意味がありますから、委員会はその中のワン・オブ・ゼムだから、これは文京区が主催になって、この会は共催するという手もあるかもしれない。
- 永倉委員長 主催は文京区という方向で御検討いただくということでもよろしいですか、大丈夫でしょうか。
- 大川幼児保育課長 多分、この委員会も区が定めた要綱に基づいて運営をされていると思いますので、いずれにしろ、主催者で委員会の名前を出したとしても、文京区だとしても、結局、区であることには変わりはないのだと思うのです。だからその位置づけだと思います。
- 永倉委員長 主催が文京区で差し支えがないようであれば、それに共催がつくという感じですか。
- 大川幼児保育課長 ほかの団体の方があれば。共催となると、責任の割合とか全部同じになってしまいますから、そこは共催としての何かがあるのか、それともこちらとしても共催として受けるかどうかというところもあります。
- 樋野委員 名義貸しの後援でもいいです。
- 大川幼児保育課長 後援だとバックアップになりますので、そこはまた立場が変わってきます。共催だと主催者の一員として入ってしまいますので、事務分担ですとか責任とかを明確にしておかなければいけない部分がありますけれども、後援となるとある程度バックアップ、支援をいただくところになりますので、そのあり方についてはまたいろいろと。
- 永倉委員長 そこはまた検討いただいて、形はそういうことにする。  
対象者については。
- 長松委員 一般市民もオーケーにしたほうがいいと思います。
- 永倉委員長 フリーというか、当事者の保護者、子供たちプラス一般の方も。
- 長松委員 一般市民、いかがでしょうか。
- 樋野委員 市民公開シンポジウム。
- 長松委員 そういうものです。
- 永倉委員長 そんな感じですか。では、報道もオーケーという形です。

○長松委員 いいと思います。

むしろ興味のある人がどんどん来て、ここから学んでいていただくような、それが一番エンパワーメントになる。

○樋野委員 私なんかはいつもやるときに、文科省とか厚労省というところに後援をしてもらうのです。だから、そういうこともできるかどうかということもあるし、その場合には、やはり市民学会にしないとなかなか後援はしてくれません。複数の後援がないと入っていきませんから。そういういろいろなことがありますから。

○長松委員 場所をもうとったほうがいいので、来年7月7日の土曜日はいかがでしょう。

先生方、忙しいから。

○永倉委員長 来年ですね。

○長松委員 はい。

○永倉委員長 今からは見えない。

○長松委員 このスケジュールだと、次に会うときは7月を過ぎているということです。

○樋野委員 来年7月7日、怠けてもいいけれども、さりげなく学会が入っている。

○長松委員 いい考えです。それか、6月30日土曜日です。

○樋野委員 6月30日はあいているよ。

○長松委員 6月30日はいかがでしょうか。

○永倉委員長 来年6月、第一候補ですか。

○長松委員 はい。候補日はそれで。

○永倉委員長 一応候補という形で、差し支えがあったらまた。

○長松委員 13時～17時です。

○永倉委員長 13時～17時、午後ですね。

○長松委員 これはやらなくてもいいと思いますが、一応とっておいて短くはできると思います。

○樋野委員 もう一回聞くけれども、土曜日で5時にする意味はあるのか。

○長松委員 何にもない。

○樋野委員 土曜日は早目に午後がいいではないか。

○長松委員 先生、1時からです。1時から5時までとっておいて早く帰りましょう。いかがでしょうか。

○樋野委員 1時から、いいです。

○永倉委員長 それで日程の候補ということと、主催の御検討をいただくということと、内容についてはA案に近いほうがいいのかなとやはり思うのですが、この辺についてはどうでしょうか、よろしいですか。

○長松委員 内山先生に来てほしいと思います。彼だったらアスベストのこと、当時のことも語れる、今も語れる。あと、学問的だけれども、病気に偏られないので淡々と話して

くれる。

○森委員 偉そうですけれども、あとは当時かかわって、その後、どういう御研究をなさったかみたいなことも、その後、今までみたいなことを子供たちに教えていただけると。

○永倉委員長 どうつながっていったかみたいなお話をさせていただくといいと思います。

○長松委員 同時にブックレットを出していただけたらなど。そのときのことを思い出していただいて、このときに来てくださったら一番いいのですけれども、それぞれに何年かかかわってくださったことを思い出して、今度の主役は子供たちですよ。そのときに子供だったら、今、大人にメッセージをいただいて、その方たちが持っている記録を集めておけば。

○永倉委員長 ブックレットの情報を集めるのが結構大変かもしれない。

○長松委員 でも、今やらなければ、私たちは年をとってできない。

○永倉委員長 アンケートが難しいかもしれないけれども、先ほど御提案があったような108人は何を考えているのか、どう思っているのかというあたりの情報をぜひ残したいですね。どういう形になるのか。

○長松委員 いいと思います。それも同時進行でやったらどうですか。

○樋野委員 小冊子をつくるという意味か。

○長松委員 そうです。大冊子でもいいけれども。

○樋野委員 それはいいではないか。記録に残る。

○長松委員 そうなのです。

○永倉委員長 具体的には、冊子をつくとどのぐらいの費用がかかるものなのですか。

○樋野委員 ページにもよります。

○長松委員 それはページによりますね、カラーにするとか。

○永倉委員長 数十万という単位、そんなにもかからないですか。

○東委員 そんなにもかからない、厚み、ページ数にもよりますけれども、カラーにするか、2色にするか、白黒にするか。

○永倉委員長 当時の記録も含めて、委員会の報告の内容はそれはそれで引けるからいい。

○樋野委員 文京区は予算を幾らつけられるのですか。

○長松委員 大丈夫です。先生、だから予算の前に言っているのです。

○永倉委員長 積み上げを今のうちに。

○樋野委員 わからない、会場費はただですか。

○大川幼児保育課長 行政目的という形で区の施設を使うとなれば、そこはかからないかと思います

○樋野委員 50万出してもらえれば、小冊子ができますね。

○永倉委員長 あと、来ていただいた先生の交通費とかがあるのですね。

○長松委員 あとは、今どきメールで、今までの委員の先生にばつと送って、ばつと返してもらって、それを編集すればいいだけだと思いますし、それは森さんと一緒に2人で頑

張りますし、ここは先生方にもメッセージを書いていただいて残す。

○永倉委員長 それを記事にして1冊にする。

○長松委員 そうなのです。何か残しておかないと、後のときに見せるものというのはないのです。今の文京区のシンポジウムに来てもらっても何にも残っていないと思います。

○永倉委員長 わかりました。

今、幾つか案が出ていると思いますが、それをちょっとまとめていただいて、各委員に少し早目に、議事録でなくてもいいけれども、箇条書きで回していただくといいかなと。

○長松委員 私を見て言わないでください。

○永倉委員長 一番怖いからそこは。

そんなことで、少し事務局さんのほうで検討課題をまとめていただいて、次回に最終的な案が組めるようにすればいいということになりますでしょうか。

そうしましたら、もう時間も大分たってきています。次に移りたいと思います。

その他ということですが、次第の7ですが、何かほかにございましたら御意見をいただければと思います。よろしいでしょうか。

そうしましたら、きょうは本当に貴重な議論も含めて、いろいろお話しできて大変に有意義だったと思います。いろいろまたやるのがふえるのではないかと思います。これからもよろしく願いいたします。

きょうはここまでにしたいと思います。どうもありがとうございました。